

## 「第9回全国RYLA研究会」

日時： 2017年2月5日（日） 10:00～17:00（開場9:00）

場所： 国立オリンピック記念青少年総合センター、国際会議場  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号（電話03-3469-2525）

対象： 地区ガバナー、パストガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、  
ガバナー補佐、地区新世代委員会委員長・副委員長・委員、地区RYLA委員会委員長・  
副委員長・委員、RYLAに関心のあるロータリアン

目的： 1. 全国の地区RYLA活動の拡大及び活性化  
2. RYLAに関する地区間の情報交換  
3. 国際ロータリーからの報告  
4. 第8回RYLA研究会報告書の配布とRYLA情報の共有  
5. 今後の方向性、（若者の為の全国規模RYLAセミナーと国際的RYLA）  
第1回「日本RYLAセミナー」2017年3月24日～26日、愛知県で開催の説明

内容： \* 基調講演 「多様性」 市川伊三夫  
\* RIからの報告、RYLArianスピーチ  
\* 分科会形式、テーブル・ディスカッション

出席者： 地区青少年交換委員会 2016-17年度委員長 新谷雅嗣 2017-18年度 石原久歳

---

### 基調講演 「多様性」

全国RYLA研究会  
大会委員長 市川 伊三夫

皆様こんにちは！

この度委員長をお引き受けした市川でございます。

皆様と一緒にRYLAの活動を大きく推進して行きたいと念願しております。

私がRYLAを知ったのは2005年2750地区のガバナーエレクトの時でした。

2750地区の海沼美智子さんが来られ熱っぽくRYLAについて語られました。

それを聞いてこの運動は青少年に対しての数多いロータリー活動の中でもやりようによっては最も骨太の運動になると確信して、彼女を激励すると共にサポートを約束しました。

そして、2750地区RYLAの第一回は講師の選定、バレーボールを楽しむ企画等、アドバイスをしたことを覚えています。

私達の2750地区ではあの時の講師、バレーボール指導者等を引き続きお願いしてやっています。

そして2005年の春、私が知った時のRYLAについての直感は今も全く変わっておりません。

私はRYLAで得た青年諸君との縁を終生大切にしていきたいと思います。

そして、皆と親しくなり全員が次代を託すに足るロータリーの後継者になって欲しいと強く念願しています。

さて、本日私が頂いたテーマは国際性・多様性とRYLAです。

ご存知のようにロータリーが標榜する価値観は

奉仕 (service)

親睦 (friendship)

多様性 (diversity)

高潔性 (integrity)

リーダーシップ (leadership)

の5つであります。

つい1週間前リーダーシップについてロータリーではない約100名の学生の前で話をしたばかりなので、多様性や高潔性について語れるのはとても嬉しいことです。

多様性と高潔性には不断の心掛けを継続的にもつことが必要です。

また古今の立派な学識者程、多様性を大切にしています。

時間の関係で多くを語れませんが1～2の例を挙げると緒方貞子元JICA理事長は第11回日韓親善会議の基調講演「世界の人々の為に」と題し多様性について次のように述べております。

「国際人という言葉は、あまり好きではないのですが、国際的な理解を持った人々の育成は必要です。世の中は多様な人間、多様な社会、多様な国々によって成り立っているのです。その中で、親善関係、信頼関係をつくっていかねばならないということを日本の戦略としてもっと考えなければいけないと政府からも言われております。どのように多様性を把握して、多様性の下に立って友好関係を築いていけばいいのか、或いは国際的なリーダーシップを発揮すればいいのかという疑問が広く問題として認識されているのです。」

もうひとつ別の例ですが、オバマ前大統領夫人が任期満了の夫君より前に国民に次のように訴えました。夫人はハーバード大学で働いていた時大統領の上司だった人です。

“私は多様性こそがこの国の発展に大きく寄与してきたと言いたい。その見地から見て私は移民であることに誇りをもっている。”とトランプ大統領に反論しています。

数日後大統領も退任の弁の中で多様性の重要性を強く訴えています。

・このように多様性はすべての進歩に欠かせない要素であることは間違いない処です。多様化は国際化と密接にリンクしています。

又、男女の差別撤廃とも老若の区別撤廃にまでつき進むことになるでしょう。

私達は将来の社会をそう展望すべきです。それを大胆に促進した国程進歩は早いのです。

又、何かの理由でその国がピンチになったとしても、立ち直りは早いと思います。

ここで話を変えて動物や植物の面から見てみましょう。

私の中学時代、大好きな生物の先生と箱根の山を歩きました。そして南洋の植物が沢山南面で生き生きと繁っている姿の前で先生はこれは皆台風が種を運んで来たおかげだよ。北に行けばシベリアの種も沢山ある。日本は有難いことに多様な植物が共存している豊かな国なのだと教えられました。植物はよいが動物は鳥以外海を渡れないですね。ここで我が国のように四面海に囲まれた国と地続きの国境を持つ国との違いを考えましょう。

先づ地続きの国はいくら止めようと思っても相手の文化はどンドン入って来てしまいます。

島国は鎖国をしてその国丈の安定と独自の文化を築くことが出来ます。

国境が地続きの国にはいつも緊張があるけど逆に言うとお互いが啓蒙されるよい面もあります。共に一長一短ですが多くの人に触れ合う意味で島国一鎖国の方が不利です。このことを言いかえると、ともすれば島国は多様性が欠如しがちになるといえると思います。

島国は殊更多様性を心掛ける、即ち外国の文化を積極的に取り入れる努力をする必要があるのです。ここ150年のわが国の歴史においてこの多様性のなさから何度も我が国は大変革を余儀なくされました。

皆さんは人間は、年々進歩していると思っているが、必ずしもそうではないのです。科学には自然科学と人文科学があり、前者に後戻りはありません。エジソンのあと電燈を発明する必要はないのです。後輩は先輩の業績の上に次の発明を考えればよいのですから。しかし人文科学はその人が生まれた時にスタートし、先輩の教えをうけ努力はするが、先輩に迄届かない処でウロウロして終わってしまうことが沢山あります。歴史は同じ間違いをする。歴史は繰り返すと言われるのはこの理由からです。

即ち古人と同じ間違いをしてしまう。古人の過ちを反省の資として決して同じ間違いをしない=と  
いいのだが又やっちゃう。

人文科学のその面を認識した古人は温故知新と声をはりあげ私達に警告しているのです。

日清・日露の日本軍は他国の人から多くの尊敬を集めました。戦争は赤十字のルールに基づいて行われるものですが、そのルールをしっかりと守ったのが日本軍だったのです。処が大東亜戦争では数多くの違反をしました。世界から野蛮な行為と非難され多くの戦争犯罪人を出しました。

何故そうってしまったのか。島国の日本は知らぬ間に劣化してしまった。外を見ないから即ち多様化しなかったのが故ともいえます。

日本を再びすばらしい国にするには多様性+国際性をしっかりと磨き、その上に高潔な日本独自のモラルを堅持することこそ大切です。

日本の歴史の中での大革命を二つ取り上げてみましょう。

まず、「明治維新」

之を成し遂げたのはほんの一握りの薩長の主として20歳代の青年です。

何百年も続いた徳川幕府その下に旗本八万騎といわれた軍隊を擁した江戸。これが少数の青年の力で敢え無く崩壊しました。国民所得の半分と占めた武士は完全に没落。職も家も失いました。一握りの薩長の下級武士のみがそれに代わったのです。大名に金を貸した大阪の富豪も殆ど貸倒で没落してしまいました。

こんな見事な革命は世界では例がありません。

何でこんな珍妙なことが起こり得たか、、、それは多様性・国際性のなさに尽きます。

次は「第二次世界大戦」です。

アジアに緊張が高まり出した時、日本はアメリカを相手にしてとても勝てないという識者は沢山いました。しかし、之を卑怯者・臆病者と罵り、日本の方が強いという人々が沢山出てきました。

即ち多様性・国際性の全くないアメリカなど全く知らない人々に押されて無駄な戦争に国民を駆り立ててしまったのです。

この戦争の被害は有史以来世界で始めてのスケールです。歴史上こんなひどい負け方をした国はないのです。

みなさん多様性・国際性のない国民の悲劇を繰り返さない為にもこの歴史をしっかりと学んでおきま

しょう。

以上2つの災害ともいえる大変革から非常に早く日本が立ち直ったのは何ででしょう。反省した日本は二度共大幅に多様性・国際性を受け入れたからです。一生懸命咀嚼し、わがものとして主要国との競争に立ち向かい、大いに勝って立派な国を作ったのです。皆さん、もう負けるのはよみましょう。その為には多様性・国際性を決して忘れないようにしましょうね。

この写真を見て下さい。



カリフォルニアでピータードラッカーに会った時の写真です。

彼との対話の中で彼は、

- 1、 どんな仕事を始めるにせよ、その先にある無限の可能性を追求せよ。
- 2、 失敗を恐れるな。(大資本家の多くは最初失敗している。)
- 3、 社会は常に激変期だ。静かで坦々と動くように見える時も次に来るかもしれない激変に備えることを忘れるな。
- 4、 20世紀は企業のリードする社会  
21世紀はボランタリーがリードする社会
- 5、 明治維新は先を読んだ(外を知った)ほんの一握りの人々が日本を制圧した。
- 6、 第二次世界大戦後も遠く先を読んだ一握りの人が日本の次世代を制圧した。
- 7、 日本人よ、海外の動き、新しい動きをもっとしっかりよく見よ。

(多様性・国際性)

私は彼と人生で3度お会いしました。この写真は3回目のもので、若い頃の激しさはすっかり消えていましたが時折見せる眼光の鋭さは不変でした。

私の大学時代ゼミナール(1948~50年)での最大のテーマは”50年後に世界の50位くらいのGDPになるにはどうしたらよいか?”でした。

これをゼミで議論しました。他のテーマで議論していてもいつの間にかこのテーマに戻っていることが多いでした。

皆さん お笑いになるでしょうね。皆さんは40年～50年あとに世界の2位まで駆け上がった日本の実績を知っています。でも当時学生である私達にとって50位にして次代に引き継げば上々というのが夢だったのです。

その次、ではどういう国であるべきか。

第一に平和、第二にマーシャルの言う”最大多数の最大幸福”ベバリッジの言う”揺り籠から墓場まで”を理想としました。

今の言葉でいうと中産階級の極大化です。

現在の日本は世界でも指折りの中産階級主体の国になりました。

若い頃私達の理想とした状態に近づいたと言ってよいでしょう。

でもその日本の他国に負けぬ”よりよい社会実現”への理想追求力は今や弱ってしまっています。

中産階級の増大がすべてに挑戦する心を弱めてしまっています。

又、少子高齢化の進みからも多様性への積極的行動が劣化しています。

今や60年以上前の私達の理想は、思わぬネックに遭遇し停滞しがちです。一言でいえば多様化への取り組みの弱さです。

結論を急ぎます。

今の世の中は若者主体の時代です。AIにしてもIOTにしても新しい生活の武器は私達には判りにくく使いこなせません。

しかし、日本の若者を他国、例えばアジアの国々の若者と比べて見て日本の方が優秀で進んでいると胸を張っていえるでしょうか。

世の中は古い事を知らないで、後から追いかけて来る方が強いのです。

日本は近代化が遅れていたから、後から追いかけたから、戦後の実現力が強かったのです。今のままではアジアの諸国の台頭が心配です。時間もありますので私はこの辺で話を終わりに致しますがお一人お一人がこの問題と是非向き合ってくださいと思います。そして、RYLAの活躍を期待し、より強力にするようこの活動を広めて行きたいと念願しています。

ご清聴有難うございました。